

釜石発

がれきを建設資材に活用へ

震災で発生したコンクリートがれきを、防波堤の建設資材として再利用する実証試験が、宮古で行われました。この試験



は国土交通省釜石港湾事務所が行ったものです。がれき処理をめぐっては、コンクリートを始めとする不燃物の処理と利活用が課題となっています。きょうの実証試験ではコンクリートがれきを通常のコンクリートと混ぜ、6立方メートルのブロックを造りました。強度を確保するため2つのコンクリートを上手く混ぜるのがポイントで、1個当たり4つの層に分け交互に積み重ねて混ぜられました。釜石港湾事務所では試験の結果を見て、宮古市内の防波堤の一部として活用する方針です。

(5/24 ニュースエコー)

陸前高田発

奇跡の一本松 復元やり直し始まる

東日本大震災の津波に耐えた、陸前高田市にある「奇跡の一本松」の復元をやり直す作業が始まりました。「奇跡の一本松」は復興のシンボルにしようと、陸前高田市が枝や葉をレプリカで再現する復元作業を進め、今年3月に一度、取り付けられました。しかし市民から「枝の角度が違う」との指摘があり、復元をやり直すことになりました。27日に始まった作業では、高さおよそ27メートルの一本松のうち、地上から20メートルのところ、枝と葉の部分を幹から切断しました。枝と葉はあすから地上で角度を調整した後、来月3日までに再び幹に取り付けられます。そして周辺の整備などを経て、7月上旬に完成式典が行われる予定です。市は復元に必要な費用およそ1億5000万円の寄付を全国に募り、これまでに1億2500万円以上が集まっています。(5/22 ニュースエコー)



宮古発

さんりく元気ラジオ

今週はみやこ災害FMの鈴木清恵さんが、宮古市の北部にある撰待地区の田植えについて伝えてくれました。



ここは小さい田畑が多くあった地域ですが、津

波の被害を受け使用できずにいました。しかしこの春、農地の約3分の1の6ヘクタールが農用地災害復旧関連区画整理事業で集約化され、40戸ほどの農家のうち、約20戸が新しい田んぼで田植えを始めました。先祖代々の土地の集約化ということで少し複雑な想いもあったようですが、「立派な田んぼを見て、若い人たちが農業に興味を持ってくれたら」という期待もあり、農家の皆さんはこれから本格的に始まる田植えを楽しみにしていられるということです。(5/19)

盛岡発

もりおか復興推進しえあハート村

盛岡市の盛南地区に作られた市の新しい復興拠点施設、「もりおか復興推進しえあハート村」の開村式が行われました。この施設は



都市再生機構が市に無償で譲渡した住宅25戸を活用したもので、被災地出身の学生を受け入れる寮や、ボランティアの宿泊棟などに振り分けられています。開村式ではシンボルとなるロゴマークがお披露目され、入居する団体や地域の人たちが完成を祝いました。しえあハート村の中には利用者以外の人も入ることができるコミュニティスペースもあり、現在は震災支援グッズの販売や、被災地出身のアーティストの作品の展示が行われています。施設の家賃はいずれも無料です。盛岡市では今後、しえあハート村を拠点として復興支援に取り組む方針です。

(5/28 ニュースエコー)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibt.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122